

科目責任者 竹内 典子 (英語・英文学)

■ 教育目的

薬剤師、薬学研究者、医療従事者として将来、仕事上で英語を使う場合に実際に必要となるのは、口語の場合も文章の場合も、専門的言葉であろう。薬学の中でもさまざまな分野において、その分野特有の専門用語や専門的表現がある。それぞれの分野の特殊な用語や表現を習得し、同じ専門家同士のコミュニケーションができるようになることがこの科目の目的である。「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に示された、薬学の各分野の英文を英米の薬学部の教科書、アメリカ政府機関のウェブサイト、英字新聞などから選び、教材とする。現在の医療と社会の諸問題を理解し、あるべき医療の姿を考え、医療人としてのものの考え方、倫理観、態度を養う。

■ 学習到達目標

1. 英語で書かれた科学、医療に関連する著述の内容を正確に説明できる。(知識・技能)
2. 科学実験、操作、結果の簡単な説明に関する英語表現を列記できる。(知識・技能)
3. 科学、医療に関連する簡単な文章を英語で書くことができる。(知識・技能)
4. 英語の会話を聞いて内容を理解して要約できる。(知識・技能)
5. 英語による日常会話での質疑応答ができる。(知識・技能)
6. 主な病名、組織・臓器名、医薬品名などを英語で発音できる。(知識・技能)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：授業予定の章の英文を CD 音声聞きながら読み、分からない単語や事柄を辞書や専門科目の教科書、あるいはインターネットなどで調べる。練習問題に自分で取り組む。

復習：学習した英文を読み直し、不明なところがないようにする。練習問題の内容も確認する。関連する分野の英文をインターネットや図書館の雑誌で探し読んでみる。またテレビの BS 放送などで外国のニュースの英語を聞く。

■ 授業内容

- 医療・生命科学・薬学各分野の英文を読み、正確な読解と速読ができるようにする。
 - 医学用語の成り立ちを理解し、専門的英語に特徴的な語法を学ぶ。
 - 英文法と語法に適った英文を作り、英語の文章にふさわしいパラグラフをいくつか組み立てることができるようにする。
 - 医療場面で必要な英語の表現を身に付け、医療英語の発音を練習して、相手の気持ちに配慮した応答ができるようにする。
- 英文のテーマ

1. Declaration of Helsinki ヘルシンキ宣言
2. Immunodeficiency Disorders 免疫不全疾患
3. Intermolecular Forces 分子間結合力
4. Chemical Bonding: Acids and Bases 化学結合と薬
5. Cell Genetics 遺伝子研究と医療
6. Thalidomide: A Second Chance サリドマイドの再考
7. Properties of Drugs 医薬品の特性
8. How Do We Design Molecules? 分子設計法
9. 100 Years of Aspirin アスピリンの 100 年
10. Cell Membranes 細胞膜

■ 授業分担者

A組 1班：須川 久美子、A組 2班：山戸 衣絵、A組 3班：竹内 典子
B組 1班：須川 久美子、B組 2班：山戸 衣絵、B組 3班：竹内 典子
C組 1班：竹内 典子、C組 2班：田沢 恭子、C組 3班：林 弘美

■ 成績評価方法

期末試験 (90%) および小テスト (10%) で総合評価する。

■ 教科書

『改訂版 Pharmaceutical English 2』 日本薬学英語研究会 編著 (成美堂)